羅針盤

映画 'The Matrix Reloaded' を意識して
写真を撮ったつもりが
'Mr. ○aric' にしか見えない
筆者近影

山﨑　研志
Kenshi Yamasaki
東北大学医学部皮膚科臨床教授

The 酒皶：reloaded

2013 年に企画を開始して 2014 年に発行した本『Visual Dermatology』誌の酒皶特集「The 酒皶」からほぼ 10 年の月日が経過しました．この 10 年の間に，海外では酒皶の治療薬が複数上市され，治療方法の選択肢が増えています．治験を含む臨床研究成果が増えるに伴い，海外では酒皶治療のガイドラインやエキスパートオピニオンによる推奨も数年ごとに改訂され，酒皶治療の考え方やアプローチも変化してきています．

酒皶は主たる症候を基準に 4 つの病型・サブタイプ；紅斑血管拡張型，丘疹膿疱型，瘤腫・鼻瘤型，眼型，に大別されます．病型・サブタイプ別治療として，2013 ～ 2017 年にかけて紅斑血管拡張型酒皶に対する治療薬が欧米で製造販売承認を受けました．病型別治療方法の充実に呼応して，2017 年に酒皶エキスパート達による ROSCO（ROSacea COncensus panel）は病型別酒皶治療推奨を発表しました．2019 年には ROSCO は病型別治療推奨からさらに発展して，持続性紅斑，血管拡張，一過性潮紅，丘疹・膿疱，鼻瘤などの症候・フェノタイプ別の治療推奨を発表しております．酒皶の症候は各病型に大なり小なり混在しており，病型・サブタイプで患者を分類するだけでは十分な治療効果を得られず，酒皶患者の満足度が必ずしも高くないことがこの変遷の背景にあります．

このように「酒皶」という病名から患者治療を考えるのではなく，「酒皶病型・サブタイプ別の治療」，さらには「酒皶症候・フェノタイプ別治療」を考えることによって，患者個別のアプローチを深化させるようとする考え方が最近の 10 年間で拡がってきております．

酒皶標準治療薬のメトロニダゾール外用薬が，2022 年に日本でも酒皶に適応拡大されました．この機会に酒皶特集の打診を受け，日本での酒皶治療を見直すという意義を込めて「The 酒皶：reloaded」の特集を企画しました．「The 酒皶：reloaded」では，酒皶診断から剤形別の酒皶治療薬を整理するとともに，適当な保険適用薬がない「赤ら顔，紅斑血管拡張型酒皶」に対するアプローチや，酒皶患者の心身症的アプローチや漢方薬など全人的アプローチについてエキスパートの先生方の考え方を共有いただく企画を組んでおります．また，コロナ禍のマスク生活での肌トラブルとしてのいわゆる「マスク皮膚炎」について原因・病態別に執筆いただきました．本書が酒皶の日常診療でふと悩んだときに手に取れる参考書にしていただき，さらなる日本での酒皶診療の発展に寄与できれば幸甚に思います．

最後になりましたが，執筆いただきました諸先生方，また本特集の発案・アドバイスをいただきました編集委員の諸先生方，そして編集いただいた株式会社 Gakken Visual Dermatology 編集担当の皆様に深謝いたします．